

2021年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者A日程 試験問題

刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

<解答上の注意>

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 六法は貸与品なので，折り曲げや書込みをしないこと。なお，書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後，指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

【問題1】 次の〔事例〕を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題1」と記入すること。

〔事例〕

Xは、A男（以下、Aという）が酒に酔ったB女（以下、Bという）を介抱しているのを見て、AがBにわいせつ行為をしているものと誤信し、Bを助けようとする意思で、暴行の故意をもってAを両手で突き飛ばした。Aは、Xに突き飛ばされたことにより仰向けに転倒し、その際、後頭部を強打して後頭部挫傷により死亡した。なお、Xの行為は、AがBにわいせつ行為をしていたとすれば、Bを助ける行為として相当なものであった。

Xは、死亡したAの上着の胸ポケットにAの財布が入っているのを認め、財布の中身を確認すると、現金が10万円ほど入っていた。Xは遊興費に窮していたことから、10万円を遊興費に充てる目的で抜き取ると、財布をAのポケットに戻し、10万円を持ち去った。

〔設問〕（配点60点）

Xの罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の【事例】を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

【事 例】

警察官Kは、暴力団組員のAから「かつて付き合いのあった暴力団組員Bから、けん銃を買ってくれと言われている。自分はもう暴力団から抜きたいと思っているのだが、どうすればよいか。」という相談を持ちかけられた。Kは、これを受けて、BやBが所属する暴力団について内偵捜査を行ったが、Bの住居や立ち回り先を明らかにすることができず、またけん銃の販売ルート等についても明らかにすることができなかった。そこでKは、Bを銃砲刀剣類所持等取締法違反（けん銃の不法所持）の容疑で現行犯逮捕しようと考え、Aに捜査への協力を求めると、Aは、「暴力団とは縁を切るつもりだから、なんでも協力しますよ。」と言って、これを承諾した。

Kは、Aに対して、Bにけん銃を買いたいと申し出るよう依頼した。Aはこれに応じ、Bにメールをしたところ、Bから、令和2年6月15日午後10時にα駅地下駐車場で取引をする旨返信があったので、Aはこのことについて、Kに報告した。

Kは、同日午後9時30分頃、Bを逮捕すべく、α駅地下駐車場管理者の協力のもと、人目につかない場所に警察官複数名とともに待機し、逮捕の態勢を整えた。

同日午後10時頃になって、周囲でしきりに見渡すなど不審な様子の一人の男（後にBと判明した。）が鞆を持ってAに近づいて行った。そこで、KらはすぐさまBに職務質問をしたうえで所持品を見せるよう申し向けると、Bは観念したように自ら鞆をKに手渡した。鞆の中にはけん銃が入っていたので、Kは銃砲刀剣類所持等取締法違反（けん銃の不法所持）の容疑でBを現行犯逮捕するとともに、けん銃を差し押さえた。

〔設 問〕（配点40点）

警察官Kのした捜査の適法性について、問題となる点を挙げ、具体的事実を摘示しつつ論じなさい。

（参照条文） 銃砲刀剣類所持等取締法
第31条の3 第3条第1項の規定に違反してけん銃等を所持した者は、1年以上10年以下の懲役に処する。（以下略）

**《問題2 以上》
《刑事法系問題 以上》**

【出題意図】

【問題 1】（刑法）

誤想防衛と死者の占有，不法領得の意思が問題となる事案を素材として，刑法総論の体系的理解と事案処理能力を問うとともに，刑法各論の基本的な理解と事案処理能力を問うものである。

【問題 2】（刑事訴訟法）

本問は，いわゆるおとり捜査の許容される限界について，判例の立場をも踏まえながら論じ，事案を解決することができるかを問うものである。